



# 江別ユネスコ協会事務局だより 2015年1月21日号

◇江別ユネスコ協会事務局/067-0074江別市高砂町24-6/教育委員会生涯学習課内(担当石津☎381-1069)

## 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が世界遺産に推薦されます

2014年12月18日に、文化庁所管の文化審議会の世界文化遺産・無形文化遺産部会で、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」を世界文化遺産に推薦することが正式に決まりました。このあと関係省庁連絡会議での審議と閣議了解を経て、2015年2月1日までにユネスコ世界遺産センターへ推薦書正式版を提出することになります。本年9月頃に、ユネスコから現地調査を委託されているイコモス（国際記念物遺跡会議）の調査委員が来日して、調査結果を来年4月末頃にユネスコへ報告し、勧告を出します。順調にいけば、来年6月に開かれる予定の第40回世界遺産委員会（開催国未定）の審議に掛けられ、登録の可否が決まります。

なお、この「長崎の教会群」といっしょに「国立西洋美術館」の推薦も承認され、順調にいけば来年6月に世界遺産に登録されます。「国立西洋博物館」はル・コルビジユの建築作品の一つとして、世界7ヶ国に点在する20件の建築物といっしょに「ル・コルビジユの建築作品と都市計画」としてフランス政府の推薦枠で本年1月中旬に申請される見込みです。ただし、この推薦は2009年の第33回世界遺産委員会（セビリヤ開催）で「情報照会」という判定を受けて登録保留。さらに再提出された2011年の第35回委員会（パリ開催）では「継続審議」に回されました。今回はインド（2009年には辞退）も推薦国に加わり、代表国フランスの面子が掛かった推薦になりました。

## 「明治日本の産業革命遺産」が今、世界遺産登録を目指しています

「明治日本の産業革命遺産—九州・山口と関連地域」は造船、製鉄・製鋼、石炭産業など重工業分野に西洋技術を移転する上で、他に類を見ないプロセスを証明する資産群です。非西洋地域において近代化の先駆けをなした経済大国日本の原点であり、歴史的に重要な意味を持つ遺産群です。

この遺産については、2009年1月に世界遺産の暫定一覧表に記載され、2013年9月17日に日本政府の正式推薦が決まって、2014年1月29日、推薦書がユネスコ世界遺産センターへ提出されました。イコモスによる現地調査は、2014年9～10月に行われ、本年4月末にはその調査に基づく勧告が行われる予定です。順調にいけば、本年6月28日から7月8日まで、ドイツのボンで開催される第39回世界遺産委員会において、世界遺産に登録されることとなります。

## 無形文化遺産に「和紙：日本の手漉和紙技術」が登録されました

昨年11月26日、パリで開かれたユネスコ無形文化遺産条約の第9回政府間委員会において、日本が提案していた「和紙：日本の手漉（てすき）和紙技術」が代表一覧表に記載されることに決まりました。手すき和紙では、すでに「石州半紙」（島根県）が2009年に登録されていますが、日本政府は「本美濃紙」（ほんみのし・岐阜県）と「細川紙」（ほそかわし・埼玉県）も登録申請する予定でいたため「同じ分野の文化財を単独では登録させない」という各国関係者の空気を読んで、既登録の石州半紙の「範囲拡大」の形式で、二つの手すき和紙技術を追加申請したものです。

日本の無形文化遺産の数は、2013年に登録された「和食」までで22件ですが、今般「和紙」が登録されても、形式上「石州半紙」という件名が「和紙」に替わっただけなので、総数は22件のままです。次に日本がユネスコへ提案している無形文化遺産候補は、「山・鉾・屋台行事」ですが、2015年の申請件数が50件を超えたため、勧告・審査ともに翌2016年へ繰り越されました。

その次には、綾子踊（香川県）、諸鈍芝居（鹿児島県）など5件が審査を待っています。

